

茨木工業

4

製品への責任

茨木工業社長の豊留永久は、自社の特徴として「ガラス繊維強化プラスチック（GFRP）」と炭素繊維強化プラスチック（CFRP）の両方に対応できる点」を挙げる。同社は永久の父である貞典がGFRP

製品の商社として創業。ウエットレイアップ製法によるGFRPを受注してきた。1994年に入社した長男の永久は、営業活動をしながらも積然としない思いを抱えていた。「製品に對するクレームや要望があっても、自分が対応できることには限界がある」。商社という業態のため、顧客に納入する製品の品質は外注先のメーカーにかかってくる。「製品に責任を持つためには自分たちの手で製品を作り、品質管理を

商社から製造業へ

しなくては」。もともとモノづくりが好きだった永久は、休日を活用して外注先のGFRP製品メーカーに通いつめ、ウエットレイアップ製法を学んで茨木工業に導入した。以後、同社は製造業の道を歩み始めた。

知り尽くして

GFRPとCFRPとの分業が多いFRP業界。永久はCFRP製品の大手メーカー勤務を経て茨木工業へ入社した。そのため「自分にとって、どちらもFRPに変わりはない」と話す。GFRP製品が軌道に乗るとかさずオートク



レブを導入し、ドライカーボンのCFRP製品に對するようになった。GFRP、CFRP両方に対応できるため、製品の

るため、あらかじめ客のニーズを開き出した上で技術提案する。客の指示よりも用途に適した構造や効率的な製法があれば、こちらか

アタッチエー スなど個人向け製品を拡充

ら積極的に意見を言う。FRPを知り尽くした同社の提案は顧客の想像を超えていて、驚かれることも多い。「指示通りに作る受け身の姿勢ではなく、良いものを追求する」のが、永久のスタンスだ。

「元気企業」

新規事業の航空機関連産業の参入に取り組み始めてからは、社内全体で品質や安全への意識が高まった。意欲的な取り組みが評価されて、近畿経済産業局の「2010KANSAIモノ作り元気企業100社」に選ばれた。製造業での歩みが、着実に同社を成長に導いている。

い。専用ホームページ（HP）を開設している「ゼロカーボン」事業では、CFRPを外装に用いたアタッチエー スやボタン、ペー ジン、定規など個人向けオリ ジナルグッズを販売している。製品表面への印刷やツヤ仕上げの有無、さまざまな形状などが一目でアピールできる商品ばかりだ。炭素繊維の織り目模様の風合いは、高級感も演出できる。



積極的に提案、良いモノ追求

中堅・中小・ベンチャー

「CFRPは見た目で素材の持つ力を表現できる、優れた材料」と目を細めて語る永久。FRPをベースに、常に新しい可能性を探り続ける。

(敬称略)

この項おわり。大阪・安藤光恵が担当しました